

# 福岡県家畜衛生だより

発行者 公益社団法人福岡県畜産協会  
福岡市博多区千代4丁目1-27

電話 092-641-8714 FAX 092-642-1276



福岡地域防疫演習風景（令和5年9月：筑紫野市）

## 目次

- 死亡牛のBSE検査対象の変更について・・・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 福岡県の監視伝染病の発生状況について・・・・・・・・・・・・・・P2
- 令和5年度のアルボウイルス流行状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・P3
- ランピースキン病（届出伝染病・海外伝染病）について・・・・・・・・P4
- 鹿の慢性消耗性疾患（CWD）について・・・・・・・・・・・・・・・・・・P5
- 豚熱・アフリカ豚熱について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P6
- 野性イノシシの豚熱サーベイランス検査状況について・・・・・・・・・・P8
- HPAIの国内発生状況と防疫対策について・・・・・・・・・・・・・・P9
- 定期報告について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P10
- 令和5年度の福岡県家畜共済事業実績（1月末現在）・・・・・・・・・・P11
- 酪農情勢について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P12
- 第4回福岡県肉用種牛共進会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・P13
- 令和5年度家畜保健衛生業績発表会について・・・・・・・・・・・・・・P14

## 死亡牛のBSE検査対象の変更について

福岡県農林水産部畜産課家畜衛生係

牛海綿状脳症（BSE）については、平成13年9月に我が国で初めて感染牛が確認されて以来、全国的に飼料規制、と畜場での安全性確保や死亡牛サーベランスなどの厳密な対策をとってきました。その結果、我が国では平成21年に確認された1頭を最後に、長期間感染牛が確認されておらず、平成25年5月にはWOAH（国際獣疫事務局）から「無視できるリスクの国」に認定されました。また、世界的にもBSE対策が強化された結果、近年発生が減少しています。WOAHは、このような状況を鑑みて、世界的なBSE対策の基準見直しを行いました。

これを受け、農林水産省はBSEに関する特定家畜伝染病防疫指針を改正し、令和

6年4月1日から、月齢による区分が廃止されます。

令和6年度から福岡県では、「月齢に関係なく、BSEを疑う症状を呈する牛及び起立不能等の牛」の中から診療獣医師が死亡牛のBSE検査が必要と判断した牛について検査を実施します。

牛飼養者の皆様におかれましては、診療獣医師がBSE検査の対象となるか判断できるように、生前の症状や経過について、必要に応じて、情報の提供をお願いします。

また、BSE検査対象牛と判断された場合は、必ず、死亡牛処理整理票及び検案書を診療獣医師から受け取り、輸送業者や北九州エコレム協同組合に提出してください。

改正前(R5年度)	改正後(R6年度)
<b>【全月齢】</b> 特定症状を呈する牛	<b>【全月齢】</b> ①BSEを疑う症状を呈する牛 ②起立不能等の牛
<b>【48か月齢以上】</b> ①起立不能を呈し、かつ ②進行性の神経症状を呈する牛	①、②から検査対象牛を <u>獣医師が判断</u>
<b>③一部の監視伝染病</b> <b>（牛伝染性リンパ腫等）の牛</b>	<b>廃止</b>
<b>【96か月齢以上】</b> <b>一般的な死亡牛</b>	<b>廃止</b>

## 福岡県における監視伝染病の発生状況について

福岡県農林水産部畜産課家畜衛生係

福岡県における令和5年（1月～12月）の監視伝染病（家畜伝染病及び届出伝染病）は、10疾病が確認されました（下表参照）。

家畜伝染病では、高病原性鳥インフルエンザが1月に1戸、3月に1戸の計2戸発生しました。

届出伝染病は、牛では、牛伝染性リンパ腫（旧牛白血病）が多数発生しています。牛伝染性リンパ腫は全国的に発生しており、治療法がなく、経済的損失が大きい病気です。

豚では、豚丹毒がと畜場で発生しました。  
鶏では、鶏痘、鶏伝染性気管支炎、伝染性ファブリキウス嚢病、ロイコチトゾーン症が発生しました。

その他、蜜蜂でアカリンダニ症、犬でレプトスピラ症が発生しました。

いずれの疾病に対しても飼養衛生管理基準の遵守や適切なワクチン接種等により発生を予防することが重要となりますので、防疫対策の徹底をお願いします。

### ○平成30年～令和5年の監視伝染病の発生状況（暦年集計）

（単位：頭、羽、群）

病名		畜種	H30	R1	R2	R3	R4	R5
家畜伝染病	高病原性鳥インフルエンザ	鶏	0	0	10	0	3	2
		その他 (エミュー)	0	0	0	0	0	2
	ヨーネ病	牛	2	1	2	1	0	0
	腐蛆病	蜜蜂	0	0	0	0	0	0
届出伝染病	牛ウイルス性下痢	牛	3	5	1	0	0	0
	牛伝染性鼻気管炎	牛	0	0	0	4	0	0
	牛伝染性リンパ腫	牛	118	145	193	175	179	171
	サルモネラ症	牛	1	7	0	0	2	0
		豚	3	6	7	7	19	0
	破傷風	牛	1	0	0	2	2	2
	気腫疽	牛	0	0	0	0	2	0
	豚繁殖・呼吸障害症候群	豚	0	0	0	0	0	0
	豚丹毒	豚	16	71	117	8	4	13
	豚赤痢	豚	0	1	0	0	1	0
	鶏痘	鶏	0	0	0	16	0	4
	マレック病	鶏	0	0	0	0	6	0
	鶏伝染性気管支炎	鶏	0	0	0	0	0	4
	伝染性ファブリキウス嚢病	鶏	0	12	278	177	5	9
	鳥マイコプラズマ症	鶏	0	0	1	0	0	0
	ロイコチトゾーン症	鶏	10	0	12	3	0	2
	アカリンダニ症	蜜蜂	1	0	3	9	6	6
	レプトスピラ症	犬	5	3	1	3	6	2

## 令和5年度のアルボウイルス流行状況

福岡県中央家畜保健衛生所

アルボウイルスは、ヌカカ(体長1~3mm、写真)などの吸血昆虫によって媒介される伝染病ウイルスの総称です。ウイルスは国内には常在せず、夏季に発生する気流によって運ばれてきた感染ヌカカにより、流行が始まると考えられています。流行は、ヌカカの発生数の多い初夏から秋にかけて多発します。妊娠牛に感染ヌカカが吸血行動を行い、ウイルスが感染して胎子に感染すると、流産、死産、早産を引き起こします。また、感染した年の晩秋から翌春にかけては先天異常子の出産が認められます。

主な疾病としてアカバネ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病があげられます。

九州地方では、ほぼ毎年のようにアルボウイルスの流行が確認されており、福岡県においても、過去にアカバネ病やアイノウイルス感染症の流行が認められています。

### 【令和5年度の流行状況】

福岡県内で飼養されている20戸40頭のワクチン未接種未越夏牛(同一牛)を6月下旬、8月中旬、9月下旬、11月中旬に採血し追跡調査を行いました。その結果、アカバネ病、アイノウイルス感染症、チュウザン病、ピートンウイルス感染症の流行は認められませんでした。しかし、流行性出血病ウイルス(EHDV)血清型6の流行が9月から11月に調査した約6割の牛に確認されました。

### 【流行性出血病ウイルス(EHDV)とは】

EHDVには、1, 2, 4-8の7つの血清型が知られており、届出伝染病に指定されるイバラキ病ウイルスはEHDV血清型2に分類されます。今年度流行したEHDV血清型6に関し

ても、イバラキ病類似症状(発熱、食欲不振、嚥下障害、流産等)を引き起こすことが報告されていますが、本県において診断に至った症例はありませんでした。

九州各県でも同時期に同ウイルスの流行が確認されています。EHDV血清型6による異常産の発生率は、アカバネウイルスやアイノウイルスと比較すると低いと思われますが、今後の発生状況を注視していく必要があるウイルスです。

### 【対策】

ヌカカの発生数が増え、ウイルスの感染が起こりやすくなる初夏前に、繁殖用の雌牛にワクチンを接種することにより異常産の発生を予防することが重要です。

アカバネ病、アイノウイルス感染症及びチュウザン病を含んだ3種混合、又はピートンウイルスを加えた4種混合不活化ワクチンを接種し、農場をはじめ地域全体で抗体保有率を高めてウイルスの増殖や発生を抑えていくことが重要です。



写真：左はアカイエカ。右はウシヌカカ  
(提供：動物衛生研究部門)



## ランピースキン病（届出伝染病、海外伝染病）について

福岡県北部家畜保健衛生所

ランピースキン病は、カプリポックスウイルス属のランピースキン病ウイルスによって起こる病気です。同じポックスウイルス科には、1977年に撲滅した人の天然痘や近年国内で発生が確認されているM痘などがあります。

この病気は、牛や水牛に感染します。過去に日本国内での発生は確認されていません。海外ではアフリカなどで主に発生していましたが、近年では中近東からヨーロッパへ拡大し、2019年には中国大陸で、2020年には台湾で発生が確認されています。また2023年10月には、韓国で初めて発生があり、11月末日までに107件、6,691頭の感染が確認され、殺処分されました。

日本では、この病気は家畜伝染病予防法の届出伝染病に指定されています。主な症状は食欲不振、発熱、リンパ節腫大のほか、全身、特に頸部や背側、脚部、外陰部などに沢山の結節ができます。そのため、口蹄疫との類症鑑別が必要です。また乳牛では泌乳量の減少や浮腫などが認められます。致死率は高くはありませんが、経済的損失が大きいため、国内で発生が認められた場合は、ほかの牛から隔離し、早期の摘発淘汰が重要になります。

ランピースキンウイルスは、皮膚の病変部や、唾液、鼻汁、乳汁や精液などの体液からも検出され、長期間感染力を維持したまま生存が可能です。また吸血昆虫である蚊、サシバエ、ヌカカやマダニなどが牛から牛へと感染を拡げ、また汚染物により感染が広がる可

能性もあります。

このウイルスは、非常に大きなウイルスに分類され、エンベロープという膜に包まれた構造になっています。この膜を壊すことで、感染性を失わせることができるため、消毒にはエタノール、次亜塩素酸ナトリウムや逆性石けんなどが有効です。

韓国での発生の際には、韓国内で緊急ワクチンを接種することで、ランピースキン病の発生拡大を抑えることができました。

日本では「ランピースキン病防疫対策要領」が令和6年1月23日に施行され、水際対策や農場での対策、本病を疑う症状を認めた場合の対応、ワクチン接種などについて記されています。また国ではリーフレットを作成し、国内への侵入に対し、注意警戒しています。

### ランピースキン病

MAFF 農林水産省

**国内への侵入リスクが高まっています**

ランピースキン病は、ランピースキン病ウイルスによる牛の伝染病。主に、蚊、ハエ、ダニの媒介による機械的伝播や、感染した牛の移動により感染が拡大します。感染した牛は、全身の皮膚の結節や水腫、発熱、泌乳量の減少などの症状を呈し、生産性に影響を及ぼします。

**ランピースキン病を疑う症状**

- 発熱、鼻汁
- 皮膚の結節
- 泌乳量の低下
- リンパ節の腫大

結節（全身性）

鼻汁

結節

皮膚病変

疑わしい場合は直ちに連絡！

写真提供：モンゴル国中央獣医学研究所 (State Central Veterinary Laboratory in Mongolia)

### ランピースキン病の侵入防止対策

#### 01 毎日の健康観察

早期発見・早期通報が重要。  
疑わしい牛は隔離し、牛の導入、出荷、移動時は健康観察を徹底。

#### 02 害虫の駆除

殺虫剤の散布とともに、粘着シート等も活用。

#### 03 清掃・消毒

衛生管理区域内の整理整頓を徹底し、飼養管理に使用する器具や畜舎等の施設は清掃と消毒を実施。

## 鹿の慢性消耗性疾患（CWD）について

福岡県北部家畜保健衛生所

伝達性海綿状脳症（TSE）は、異常プリオン蛋白質により引き起こされる病気です。特に注目を集めたのは、牛のBSEであり、1990年代には狂牛病とも呼ばれていました。この病気は1986年に英国で報告されて以降、世界で19万頭以上の感染が確認されています。原因は異常プリオンに汚染された肉骨粉の給餌によるとされました。

その他にもめん羊・山羊のスクレイピーや鹿の慢性消耗性疾患（CWD）があります。類似疾病としてはヒトのクロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）があり、プリオン病とも呼ばれます。

これらの疾病のなかで今回は、鹿のCWDについてお話ししたいと思います。ニュースなどでは「ゾンビ病」と記載されたものもあるため、この呼び名で知っている人がいるかも知りません。

CWDは1967年、米国で初めて確認されて以降、2023年3月までに米国、カナダ、北欧の3か国、そして韓国での発生が確認されています。臨床症状だけでは診断できませんが、異常プリオンにより脳がスポンジ状の空胞変性を引き起こすことで、様々な神経症状を引き起こし、最後は死に至ります。

CWDは他のプリオン病と異なり、水平感染を起こします。CWDの異常プリオンは、感染した鹿の糞便、尿、唾液を介して環境中に排泄されます。これらを鹿が口から取り込むことで、感染が成立してしまいます。また母から子への垂直感染も確認されています。

異常プリオンは消毒などでは感染性をなくすることが難しいため、一度環境中に定着してしまうと根絶は非常に難しいとされています。

隣国の韓国では、2018年以降、毎年のようにCWDの発生が確認されています。日本国内では2003年から2010年かけて野生シカを対象としたサーベイランスを実施し、2018年以降も年に約100頭の野生鹿のサーベイランスを実施していますが、CWDの発生は確認されていません。このサーベイランスCWDの発生が確認された場合は、都道府県は「野生のシカ科動物におけるCWD発生時対応マニュアル」に基づき、対応することになっています。

農林水産省は家畜防疫の観点から、CWD発生国からのシカ科動物及びシカ科動物由来畜産物の輸入停止措置を講じており、厚生労働省は、関係事業者に対して、これらの国から輸入をおこなわないよう指導しています。

なお、CWDの異常プリオンの人に対する影響に関する研究結果が報告されていますが、CWDの異常プリオンが人へ感染することを示す証拠はこれまでのところ確認されてはいません。

日本国内への侵入は、畜産業のみならず、野生動物を利用したジビエ産業にも多大な影響を及ぼす可能性があるため、十分に警戒する必要があります。



## 豚熱、アフリカ豚熱について

福岡県北部家畜保健衛生所

豚の特定家畜伝染病には、口蹄疫、豚熱およびアフリカ豚熱があります。どの病気も養豚業に甚大な被害をもたらす重要疾病ですが、日本国内で今現在、特に危機感を持って対応が必要なものは、豚熱及びアフリカ豚熱です。これらの病気について、国内外での発生状況と防疫対策について説明します。

豚熱（CSF）は、豚熱ウイルス（CSFV）による豚及びイノシシの熱性伝染病です。日本では2018年9月に26年ぶり発生して以降、全国的に拡大し、2023年8月には、とうとう九州への侵入を許してしまいました。これに伴い、九州各県では緊急の豚熱ワクチンの接種が開始され、福岡県では同年10月初旬までに全農場の豚に対する豚熱ワクチン接種を完了しました。

幸いにも、その後の九州内での養豚場における新たな豚熱発生や野生イノシシへの豚熱ウイルスの侵入は確認されていません。生産者の皆さまにおかれましては、今後とも引き続き飼養衛生管理基準を遵守していただきますようお願いいたします。

アフリカ豚熱（ASF）は、アフリカ豚熱ウイルス（ASFV）による豚及びイノシシの熱性伝染病です。強い伝染性と高い致死率を特徴としていますが、臨床症状からは豚熱と区別ができません。日本国内への侵入が最も警戒されている家畜伝染病の一つです。

ASFは常在地としてアフリカ諸国で問題

とされてきましたが、2007年頃から徐々にロシア、ヨーロッパへ拡大し、2018年には中国国内で発生しました。それに伴い東アジアの国々に次々と拡大しました。現在、東アジアでASFの発生がないのは、日本、台湾のみです。

特に隣国である韓国でのASFの発生（令和6年3月4日現在）は、飼育豚で40例となっており、野生イノシシの陽性例は3,731頭となっています。

日本へのASFの侵入について、警戒感をより一層高めたのが、交通の要衝として知られ、日本とも非常に関係の深い釜山広域市に生息するイノシシにおいて、ASFが確認されたことです。すでに16例のイノシシ陽性が確認されており、釜山市からの直行便がある福岡県、山口県及び長崎県では、今まで以上の警戒感を持って対応する必要があります。

2020年7月からは、海外からの肉製品の違法な持込みに対する対応が厳格化され、輸入申告のない肉製品などの畜産物が確認された場合、罰則の対象となります。輸入検査を受けずに畜産物を持ち込んだ場合には、3年以下の懲役又は300万円以下の罰金が科せられます（ただし、法人に対しては最高5,000万円）。

しかし、ASFの侵入リスクは肉製品の持込みだけではありません。ASFウイルスは環境抵抗性が高く、有効な消毒薬による消毒が必須となります。観光客の靴底消毒は当然のこととして、サイクリングを目的とした自



転車の持ち込みの場合は、タイヤを消毒するなど、汚染されている可能性のあるものに対しては徹底的な対策が必要となります。

いち早く国内の侵入を察知するための捕獲イノシシのサーベイランスの強化や、観光関係者との協力など、水際対策だけでなく、さらに踏み込んだ対策が必要であるとの提言がなされています。

新型コロナウイルス感染症の流行も収束し、東アジア地域などからインバウンドが活発になっています。それに伴って、様々な病気の侵入リスクは高くなっています。いかに侵入を防ぐか、また万が一侵入を許してしまった場合、いかに早期に摘発できるかが国内まん延を防ぐ唯一の方法となります。そのためには関係者、関係機関が一丸となって、対策に取り組むことが最も重要です。

**MAFF 農林水産省**

## アフリカ豚熱

**そこまできています**  
発生を未然に防ぐことが日本の養豚を守るために極めて重要です。

皮膚の出血や全身のチアノーゼが特徴。他には食欲不振・沈鬱等。

農場へのウイルスの侵入を防ぐために、**すぐに農場の衛生対策を再点検！**

- 致死率はほぼ**100%**
- 中国で発生による死亡・殺処分により豚の飼養頭数が**4割減少**
- 周辺農場も殺処分の可能性

有効な治療法やワクチンはない

2019 2023 釜山 2024

日本から50kmしか離れていない釜山で続発中！

約50km

釜山

港や空港付近で発生が続いています。

金海国際空港  
新す道、成山、蔚山国際、中部国際、松山、福岡、釜山、韓国旅客ターミナル  
対馬、福岡、下関、大分

## 九州における豚熱の発生・まん延防止のために

**MAFF**  
農林水産省

- ▶豚熱には有効なワクチンが存在し、適切に接種すれば発生を予防することが可能です。
- ▶適切な衛生管理を行い、ウイルスの農場への侵入を防ぎましょう。
- ▶異状があった場合の早期通報を徹底し、周囲の農場等へのウイルスのまん延を防ぎましょう。

### ワクチン接種の実施

- ワクチン接種の体制整備を迅速に進めます。  
⇒九州各县をワクチン接種推奨地域に設定して、速やかな接種を進めます。
- ワクチンの供給を確保します。  
⇒ワクチンは十分な在庫があり、増産についてもメーカーに要請しています。
- ワクチンの打ち手の確保が重要です。  
⇒家畜防疫員だけでなく、研修を受ければ農場の飼養衛生管理者もワクチン接種が特例的に可能となります。  
(各县で研修が速やかに進められるよう先行県の取組を共有するなど支援します。)



### 飼養衛生管理の徹底

- 豚熱の発生を防ぐためには、日々の飼養衛生管理の徹底が最も重要です。  
⇒ウイルスが農場内に持ち込まれないよう、消毒や衣服等の交換などをしっかりと行いましょう。
- 豚熱のまん延を防ぐには、早期通報が重要です。  
⇒異状がみられる場合や、死亡頭数が増加した場合は、最寄りの家畜保健衛生所に相談してください。

### 野生いのしし対策の強化

- 感染拡大防止には、野生いのししの感染状況の把握が重要です。  
⇒各县において、猟友会等と連携して捕獲を強化するとともに、検査も強化します。  
⇒いのししの死体を見つけた場合には、自治体や最寄りの家畜保健衛生所に御連絡ください。





## 野生イノシシの豚熱サーベイランス検査状況について

豚熱(ぶたねつ)は、国際連合食糧農業機関 (F A O) などの国際機関が「国境を越えてまん延し、発生国の経済、貿易及び食料の安全保障に関わる重要性を持ち、その防疫には多国間の協力が必要となる疾病」と定義する「越境性動物疾病」の代表例です。

かつて、日本で豚熱は全国的にまん延していましたが、飼養衛生管理の向上及びワクチンの普及により、平成4年を最後に国内での発生は確認されなくなり、平成18年4月からワクチン使用を完全に中止した結果、平成19年に清浄国の認定を受けました。

しかし、平成30年9月、日本で26年ぶりに豚熱が発生して以降、東海地方を中心に豚飼養農場における発生が相次いで確認されています。

令和5年8月には佐賀県の養豚場で発生が確認され、九州全県が豚熱ワクチン接種推奨地域に指定されたことを受け、福岡県では9月19日から飼養する豚およびイノシシに対する予防的ワクチンの接種を開始しました。

現在、九州地域で野生イノシシの豚熱感染は確認されていませんが、北海道、九州・沖縄と青森県、千葉県、愛媛県を除く全国へ拡大しており、野生イノシシにおける感染拡大防止及び清浄化が急務となっています。

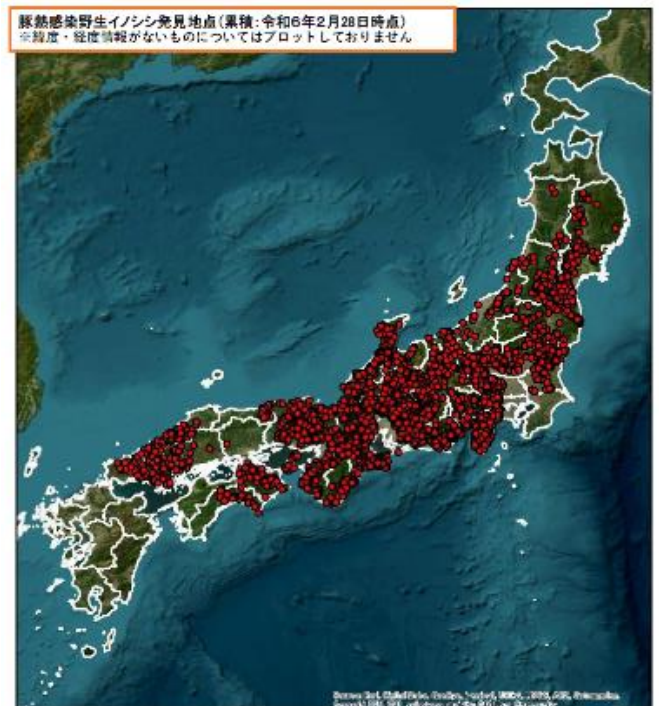
また、令和2年8月以降、全都道府県で豚熱感染野生イノシシのサーベイランス検査を強化(目標299頭)しているところであり、検査情報については、農林水産省HPから確認することが可能です。

これまでの野生イノシシでの豚熱感染拡大の状況から、豚熱をはじめとする家畜伝染病は人為的に伝播されている可能性が高

福岡県農林水産部畜産課家畜衛生係

いため、日常の行動においても注意が必要です。

下記のホームページや動画をご確認いただき、皆さん一人一人が出来る家畜伝染病拡散防止対策にご協力いただきますようお願いいたします。



豚熱感染野生イノシシ発見地点(令和6年2月28日時点)(赤丸:豚熱感染確認地点)

参考)

- ・農林水産省 HP  
野生イノシシに対する豚熱の検査情報



- ・アフリカ豚熱拡散防止動画  
家畜伝染病は人が無意識に運んでいる？



# 高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) の国内発生状況と防疫対策について

福岡県筑後家畜保健衛生所

## 1 令和5年度の発生状況 (図1)

### ○家さん

過去3シーズンと比較すると今シーズンは、初発が11月下旬と遅く、発生事例数は8県9事例となっています。

(参考)

令和2年度：初発11月上旬、18県52事例

令和3年度：初発11月上旬、12県25事例

令和4年度：初発10月下旬、26県84事例

### ○野鳥

過去3シーズンと比較すると今シーズンは初確認が10月上旬と令和2年度並みであり、確認事例数は25都道府県110事例となっています。

(参考)

令和2年度：初確認10月上旬、18県58事例

令和3年度：初確認11月上旬、8県107事例

令和4年度：初確認9月下旬、28県242事例

## 2 侵入経路

本病は家さんでの発生前に国内の野鳥から検出される傾向があります。今シーズンの発生農場でも近傍でカモ等が多数確認されており、HPAIウイルスは感染した野鳥及びその排泄物等と接触した野生動物や昆虫(オオクロバエ等)の媒介により農場内へ侵入した可能性が考えられています。

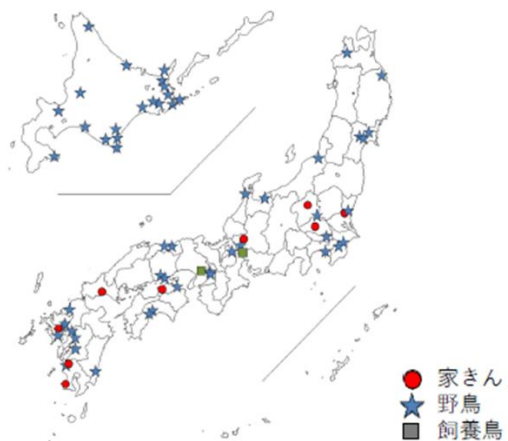


図1 令和5年度国内における発生状況

(R6.2.20現在)

## 3 防疫対策について

渡り鳥は10月頃に渡りが始まるため、それまでに十分な防疫対策を実施する必要があります。今シーズンや過去の家さん及び野鳥での事例を踏まえると、HPAIウイルスが農場周囲や鶏舎のすぐそばに存在していたことが十分考えられます。特に以下の点について再確認をお願いします。

- ① 衛生管理区域への人や物の出入を必要最小限に制限
- ② 手指や作業着の洗浄・消毒の徹底
- ③ 専用作業着・長靴の使用
- ④ 鶏舎、飼料庫、堆肥舎、集卵施設など全ての施設について、隙間や破損の修繕
- ⑤ 農場内で野生動物の痕跡が確認された場合は、殺鼠剤、粘着シート、捕獲器などで駆除
- ⑥ ハエ取り紙の設置

※オオクロバエからHPAIウイルスが感染性を保った状態で分離された報告があります。このハエは春と秋に発生ピークを迎え、最長1年間生存します。冬の間は成虫で越冬するため、発生ピーク前に発生源である鶏糞などに対して駆虫するとともに成虫対策を実施しましょう。捕虫されたハエを鶏が食べないように注意しましょう。

例年5月頃までHPAIの発生報告があることから、引き続き警戒が必要な状況です。今後も飼養衛生管理基準の遵守をお願いします。

## 定期報告について

福岡県両筑家畜保健衛生所

牛、水牛、鹿、馬、めん羊、山羊、豚、いのしし、鶏、あひる、うずら、きじ、だちょう、ほろほろ鳥及び七面鳥の所有者は、毎年、2月1日現在の飼養頭羽数等を定期報告書で県に報告することが義務付けられています（家畜伝染病予防法第12条の4第1項）。

報告は、その飼養頭羽数及び飼養目的（畜産業、教育（学校動物）、愛玩用（ペット）、観賞用、展示（動物園等）、競技など）にかかわらず全ての所有者が対象となります。

農場を管轄する家畜保健衛生所へ定期報告書の提出をお願いします。

### 【定期の報告の具体的な報告事項】

- ・飼養している家畜の種類及び頭羽数（2月1日時点）
- ・畜舎等の数
- ・飼養衛生管理基準の遵守状況及び当該飼養衛生管理基準を遵守するための措置の実施状況

注）家畜の飼養頭羽数が下記の小規模所有者に該当する場合は、飼養している家畜の種類及び頭羽数（2月1日時点）のみを報告してください。

### 【小規模所有者】

- ・牛、水牛及び馬にあっては1頭
- ・鹿、めん羊、山羊、豚及びいのししにあっては6頭未満
- ・鶏、あひる、うずら、きじ、ほろほろ鳥及び七面鳥にあっては100羽未満
- ・だちょうにあっては10羽未満

なお、家畜伝染病予防法施行規則の一部を改正する省令(令和3年9月24日農林水産省令第55号)により、新たな飼養衛生管理基準が公布されました。これに伴い、定期報告に関する各種様式も変更されましたのでご確認ください。個人情報の取扱いに係るご同意についてもよろしくお願いします。

また、令和6年4月からは飼養衛生管理支援システムの運用が開始され、令和7年度の定期報告からは、オンラインの提出も可能になります。

農林水産省ホームページもご確認ください。

### 【アドレス】

[https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku\\_yobo/k\\_shiyou/](https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_shiyou/)

### 【QRコード】



## 令和5年度の福岡県家畜共済事業実績（1月末現在）

福岡県農業共済組合 事業部 事業2課 家畜係

令和5年度福岡県家畜共済事業における  
1月末の概要についてお知らせします。

### ・加入状況

#### 【死亡廃用共済】

搾乳牛 146 戸(8535 頭)、育成乳牛 143 戸  
(4981 頭)、繁殖用雌牛 80 戸(2456 頭)、育成  
肥育牛 216 戸(19239 頭)、豚 5 戸(12230 頭)

#### 【疾病傷害共済】

乳用牛 146 戸(9392 頭)、肉用牛 238 戸(9962  
頭)、子牛の選択率 乳用牛(88%)、肉用牛  
(78%)

厳しい畜産情勢を受けて、加入者の廃業や  
飼養規模縮小が続いています。加入頭数は昨  
年度よりも、死亡廃用共済で 2,099 頭減、疾  
病傷害共済で 625 頭減と大幅に減少しました。  
平均共済評価額は、牛の価格下落により、搾  
乳牛 51 万円(10 万円減)、育成乳牛 45 万円  
(11 万円減)、繁殖用雌牛 83 万円(2 万円減)、  
育成肥育牛 72 万円(2 万円減)と乳牛を中心に  
前年より大幅に減少しています。

また、令和6年度に適用する評価額につい  
ては、子牛価格及び枝肉価格の暴落を受けて、  
大幅に減少した価格となっています。

### ・事故状況

#### 【死傷事故】

加入頭数が減少したことより、事故が減少  
しています。

### ・乳用牛(成牛)

836 頭 1 億 5,126 万円 (6,500 万円減)

### ・乳用牛(子牛)

146 頭 635 万円 (329 万円減)

### ・肉用牛(成牛)

231 頭 4,614 万円 (1,202 万円減)

### ・肉用牛(子牛)

639 頭 4,644 万円 (873 万円減)

### ・肉豚

1,415 頭 1,381 万円 (371 万円減)

### ・合計

3,266 頭(421 頭減)

2 億 6,368 万円 (9,429 万円減)

#### 【病傷事故】

加入頭数が減少したことより、病傷事故件  
数についても減少しています。

### ・乳用牛(成牛)

7,878 件 1 億 1,355 万円 (2,281 万円減)

### ・乳用牛(子牛)

425 件 561 万円 (109 万円減)

### ・肉用牛(成牛)

1,695 頭 1,734 万円 (76 万円減)

### ・肉用牛(子牛)

1,735 頭 2,313 万円 (218 万円減)

### ・合計

11,733 頭(1,020 頭減)

2 億 6,368 万円 (2,685 万円減)

家畜共済では、農家の皆さんの貴重な財産  
の不慮の事故に備え、補償を行っています。  
ご興味のある方は、お近くの組合支所にお問  
い合わせください。



## 酪農情勢について

ふくおか県酪農業協同組合

酪農を取り巻く状況は、乳製品の過剰在庫問題に加え、飼料・燃料価格等のあらゆる資材価格の高騰、さらに昨年の春ごろには持ち直しつつあった子牛価格が、夏場以降低下し酪農家個々での経営努力では対応しきれない経営環境が継続しています。令和5年度の福岡県内酪農家戸数は、1月末時点で148戸と昨年度より8戸減少しました。

### ・県内酪農家戸数（戸）

年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6.1末
戸数	182	174	156	148
前年比	95.8	95.6	89.7	94.9
差	▲8	▲8	▲18	▲8

酪農現場の危機的状況を背景として飲用向けと発酵乳向け生乳が一昨年11月から、乳製品向けが4月にそれぞれ10円/kg値上げされたものの、この乳価水準では上昇した生産コストを吸収することができず、危機感を抱いた酪農現場の声を受け再度乳価交渉が行われた結果、8月から飲用向けと発酵乳向けが10円、12月からは乳製品向けの内、バター向けが6円の乳価の値上げが行われました。現状の生産コスト上昇分を補うには未だ不十分な値上げではありますが、現在の牛乳乳製品を取り巻く状況は、長期化する需給不均衡に伴う脱脂粉乳の過剰在庫問題、物価高や節約志向に加え、牛乳価格の上昇による更なる消費減退等が危惧されております。

中央酪農会議では、この需給ギャップを改善するため、需要に見合った生産が不可欠となることから全国的に生産抑制型の出荷目標数量を設定し生産抑制対策を推進、令和5年

11月末日時点における令和5年度の生乳生産数量は前年比の94.9%にとどまっています。

併せて、乳製品在庫削減対策として、生産者及び乳業者が拠出、これに国の支援を受けた取り組みにより、脱脂粉乳の在庫の削減を目指しており令和5年11月末日における在庫数量は年度当初より15.0千トン削減され50.2千トンまで減少しています。

### ・県内生乳受託乳量（トン）

（前年度廃業者実績を含む）

年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5見込
乳量	72,256	72,253	65,458	59,297
前年比	97.6	100.0	90.6	90.6
差	▲1,808	▲3	▲6,795	▲6,161

### ・県内経産牛頭数（頭）

年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6.1末
経産牛	8,144	7,997	7,145	6,924
前年比	98.6	98.2	89.3	96.9
差	▲117	▲147	▲852	▲221

組合では、令和4年度から引き続き行政に酪農現場の窮状を訴え支援継続要請に努め、国、県、一部の市や町からも助成支援を実施していただくことになりました。財政状況が厳しい折、誠にありがたいことと感謝申し上げます。今後も酪農生産基盤の維持・強化を図れるよう努めてまいります。

## 第4回福岡県肉用種牛共進会について

福岡県農林水産部畜産課大家畜係

福岡県肉用種牛共進会は、県内の肉用子牛生産者と肥育牛生産者及び関係団体の密接な連携による肉用牛の振興を目的に平成30年に設立された福岡県肉用牛振興協議会が主催し、本県の酪農・肉用牛生産近代化計画で定められた目標達成のための育種改良と、安定した和牛繁殖経営の実現を目的に令和元年度から開催されています。

第4回の大会は、令和5年11月11日（土）に福岡県農業大学校グラウンドにおいて開催され、若雌1区（生後12か月～16か月）に7頭、若雌2区（生後17か月～20か月）に12頭の計19頭が出品されました。

審査委員による厳正な審査の結果、最優秀賞として、若雌1区は3頭、若雌2区は6頭が選ばれました。

前回大会に続き審査顧問を務めていただいた公益社団法人全国和牛登録協会の山口総務部長からは、全体的に出品牛のレベルが高く、県内の雌牛集団のレベルの向上が感じられるとの講評もあり、県内の繁殖雌牛の改良と肉用子牛農家の飼養管理技術の向上が実感される大会となりました。

### 第4回福岡県肉用種牛共進会

- 開催期日 令和5年11月11日（土）
- 開催場所 福岡県農業大学校グラウンド
- 出品頭数 若雌1区 7頭  
若雌2区 12頭
- 褒賞

#### 【若雌1区】

- 最優秀賞 1席 「みつふじ」 株式会社木村牧場
- 2席 「ひさしげ」 上野修司
- 3席 「りえこ」 大石昌史



最優秀賞1席「みつふじ」

#### 【若雌2区】

- 最優秀賞 1席 「きたさやか」 株式会社高手牧場
- 2席 「きたみくに」 株式会社高手牧場
- 3席 「やすりよ」 福岡県立糸島農業高等学校
- 4席 「はれゆり」 上野修司
- 5席 「あさこ」 株式会社木村牧場
- 6席 「さきはやざくら」 株式会社高手牧場



最優秀賞1席「きたさやか」

## 令和5年度福岡県家畜保健衛生業績発表会について

福岡県農林水産部畜産課家畜衛生係

県は、令和5年度福岡県家畜保健衛生業績発表会を、令和5年11月22日（水）に吉塚合同庁舎で開催しました。例年、家畜保健衛生所職員が日頃の業務を推進する中で得た成果や試験調査成績について発表しています。

また、特別講演では、国立研究開発法人国立環境研究所 生物多様性領域生態リスク評価・対策研究室主幹研究員 大沼 学先生に

「国内への鳥インフルエンザウイルスの侵入状況とその検出方法について」の演題で、野生動物のサーベイランス検査における考え方等について貴重なお話を聞かせていただきました。

本年度の発表演題は下記のとおりです。演題の詳細につきましては、発表者の所属する家畜保健衛生所へお問い合わせください。

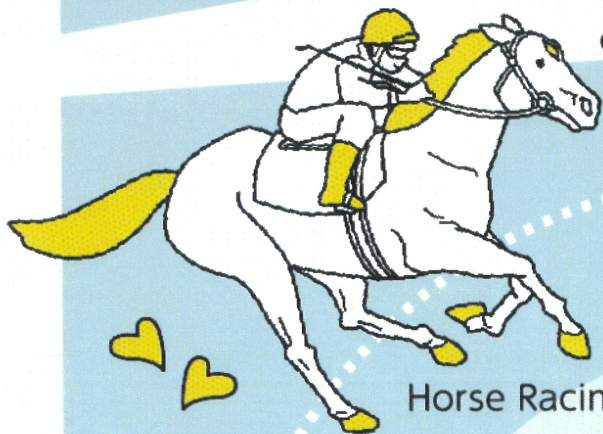
演 題		家保名	発 表 者
〔 第1部 〕			
1	子牛の下痢多発農場における指導事例	両筑	穴井 朗武
2	一酪農家における牛伝染性リンパ腫清浄化への取り組み	両筑	黒田 成孝
3	豚熱ワクチン接種豚の受入に伴うと畜場の交差汚染防止対策の実施	北部	神渡 美真
4	採卵鶏農場におけるワクモ対策の取り組み	筑後	樋口 真
5	高病原性鳥インフルエンザ発生で露呈した消毒ポイントの課題とその対応	北部	松尾 浩子
⑥	エミュー飼養農場におけるHPAIの発生とその対応	中央	坂本 知彦
7	令和5年7月の豪雨災害における防疫備蓄資材倉庫の被災とその対応	両筑	松隈 知子
〔 第2部 〕			
⑧	乳用牛における牛伝染性リンパ腫抵抗性遺伝子の保有状況調査と考察	筑後	深水 大
9	重度の肺炎を呈した育成牛のマンヘミア症と県内分離株の性状確認	中央	服部 美紀
10	高速クロマトグラフィーとビタミンA簡易測定装置の分析能比較	中央	井坂 紗英
11	鶏痘ワクチン接種済み農場で発生した混合型鶏痘	北部	堀 瑛
12	強制換羽後の採卵鶏で発生した尿石症	中央	黨 征志郎
13	採卵鶏農場で発生した鶏クロストリジウム・パープリンゲンス感染症及び鶏コクシジウム症	筑後	浅野 愛理香
⑭	エミュー飼養農場及び鶏飼養農場で発生した高病原性鳥インフルエンザ（H5N1亜型）の病性鑑定成績	中央	因泥 優樹

○：九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会選出演題

なお、全国家畜保健衛生業績発表会への選出演題は、令和6年度に開催される九州・沖縄ブロック家畜保健衛生業績発表会で選出されます。



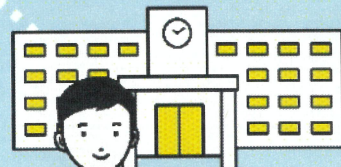
# みんなのくらしと 地方競馬



Horse Racing

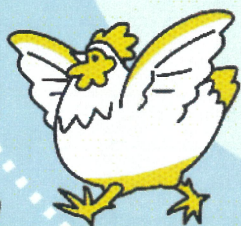
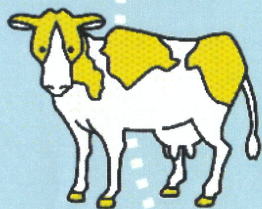


Welfare  
&  
Culture

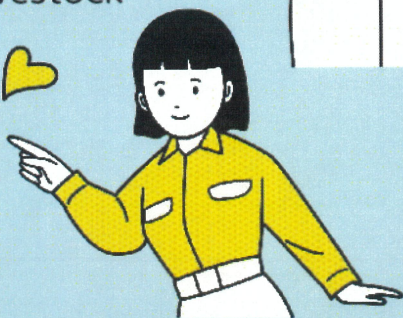
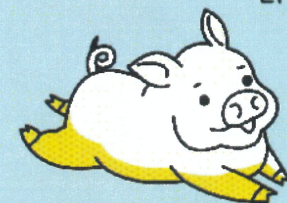


## 地域とともに 未来へ歩む

地域貢献も！



Livestock



地方競馬の  
収益金は、  
畜産振興及び  
地方財政の改善に  
活用されて  
います。

GO馬君



●帯広  
●門別

盛岡●  
水沢●

●金沢

●浦和  
●船橋  
●大井  
●川崎

●佐賀  
●高知  
●姫路  
●園田  
●笠松  
●名古屋



地方競馬全国協会

<http://www.keiba.go.jp/>

毎日どこかで走ってる  
あなたのそばに  
馬たちのドラマ



口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザ等  
から家畜を守るために



## 毎月20日は 「ふくおか一斉消毒の日」

病原体の侵入、疾病のまん延を防止するには、県全体での防疫対策が重要です。

毎月20日は、定期的な消毒に加え、県内一斉消毒に取り組みましょう！

全ての畜産関係者のご理解とご協力をお願いします。

### 消毒、家畜の病気に関するお問合せ

中央家畜保健衛生所	TEL 092-633-2920
北部家畜保健衛生所	TEL 0948-42-0214
両筑家畜保健衛生所	TEL 0942-30-1037
筑後家畜保健衛生所	TEL 0942-53-2405

家畜の異状の早期発見・早期通報をお願いします。

【 福 岡 県 】